

愛知の協同組合間協同連絡会発足までの経過

2022年07月06日

愛知の協同組合間協同相談会

愛知の協同組合間協同には長年の歴史がありますが、愛知の協同組合間協同相談会は、2012国際協同組合年の前年である2011年からスタートしました。

第一期：国際協同組合デー記念企画実行委員会として始めました。

(1) 2011年は、2012国際協同組合年のプレ企画として「協同組合憲章」の学習会を行いました。

NPO地域と協同の研究センターが主催、JAあいち中央会から報告がありました。

(2) 2012国際協同組合年から、毎年、国際協同組合デー記念企画を共同開催してきました。

2012年 2012国際協同組合年の記念企画を、愛知・岐阜・三重3県の協同組合間協同組織による合同のシンポジウムとして開催し、新聞広告を掲載しました

2013年 国際協同組合デー記念企画を、愛知の協同組合間協同（震災支援）として実施しました。

2014年以降、毎年の国際協同組合デー記念企画を開催しています。

(3) この時期は組織名称を「国際協同組合デー企画相談会」とし、広報及び相互の連携を積み重ねました。

①記念企画報告リーフレットを作成し周知 (2012年～現在まで)

②JA愛知中央会幹部研修への講師派遣 (2013年2月)

テーマ「これからの協同組合間提携を考える」

③3分野で、協同組合間協同の関係づくりに着手しました (2015年～)

「食と農」：コープあいちとJAの定期協議、JAまつりへの参加等からすすめました。

「医療・福祉・介護」：県内の事業所マップを作成しました。 (2015年)。

政策情報交換会・南生協病院見学（医療生協、地域生協、農協中央会、厚生連）を行いました。

「次世代」：子ども食堂、大学生の協同組合体験・寄付講座などを情報交換しました。

④地域エリア（単協）ごとの関係づくり (2015年～)

地域エリアごとのJA支所・生協事業所・担当職員のつながりをめざし、2015年の国際協同組合デー企画では地域別分科会を設けました。

(4) 幹部の理解と参加を強化する趣旨をもって幹部学習会を開催しました。

2016年2月 ICAでの探求と協同組合原則の深まりを学習しました。

「ICA 2020へのブループリント：2013」「協同組合原則ガイダンスノート：2

〇15」

講師：日本生協連 和田寿昭専務理事（ICA大会の出席報告を兼ねて）。

第二期：2017年より、名称を「愛知の協同組合間協同を推進する相談会」としました。

（１）「国際協同組合年企画相談会」から「愛知の協同組合間協同相談会」へ（2017年～）

目的：愛知における協同組合間協同を推進する

参加団体 農協グループ（JA 愛知中央会）

生協グループ（コープあいち・南医療生協・北医療生協・全国大学生協連東海ブロック）

ワーカーズグループ（ワーカーズコープ東海事業本部）

NPO（特定非営利活動法人地域と協同の研究センター）

相談会では、つぎのような点で交流し、協同組合間協同を進めてきました。

「経済連携協定」と関連する国内法の改定（種子法、種苗法）

SDGs「持続可能な社会開発目標」と協同組合（2015年～）

ユネスコ無形文化遺産登録・「協同組合の思想と実践」（2016年）

国連総会「国際家族農業の10年」（2019年～）

協同組合各分野の状況、大会決議や2030年ビジョン等

：農協改革の動向、協同労働の協同組合法制定の動き

愛知県内での協同組合間協同の進め方

地域（ブロック）ごとに交流・相互理解できる場（組合員・職員・役員）をどう設けるか
協同して推進する課題をどう設定するか、協同組合の学習・教育・研修を重視する
連携して推進する目的は、地域社会の課題を協同で解決する（参画する）こと。

（２）国際協同組合デー記念企画は、相談会の協議をふまえて、毎年開催してきました。

2017年度：基調「困ったに立ち向かう協同の力」

記念講演：株マイファーム代表取締役 西辻一真氏 3つの分科会

2018年度：基調「組合員の自治・参加・学習で持続可能な地域社会づくり」

記念講演・JCA 副主任研究員 阿高あや氏 6つの分散会

2019年度：基調「地域における協同組合の可能性を広げる ひと、地域、協同組合のつながり」

基調講演・JCA 青竹豊常務理事

（３）2018年4月、日本協同組合連携機構（JCA）が発足しました。

愛知の協同組合間協同推進相談会は、愛知県の協同組合間協同組織としてJCAの開催する全国交流会に参加。全国の多様な事例を学ぶとともに、愛知県の各協同組合の実践や協同組合間協同の実績、事務局である地域と協同の研究センターの関わりを紹介しています。地域と協同の研究センターは、JCAが主催する全国協同組合等研究組織交

流会に参加しています。

JCAは「2030年ビジョン」を決定し、都道府県レベルで地域問題の解決のために協同組合の枠を越えた「円卓会議」の開催を呼びかけました。2021年2月17日には東海・北陸ブロックで「2030年ビジョン」の説明会（オンライン）が開かれました。

- (4) 2020年、2021年、愛知の協同組合間協同をさらに一歩すすめる環境が生まれています。

2020年度は、新型コロナの感染が拡大しましたが、その一方で、協同組合の果たしている役割の重要性や、協同組合間協同をさらに進める必要性も明らかになりました。

2020年度：国際協同組合デー記念企画 in 愛知

人と地域の新しい Co-operation！コミュニティでの協業と循環経済をめざして

- I. 開会・全体会 「新型コロナウイルスの下での協同組合の実践」
農協グループ・地域生協・大学生協・医療生協・ワーカーズコープより
- II. 地域オンライン分散会 「コミュニティベースで協同組合がつながろう」
「研究センター会員（会員・研究者・大学生等）分散会」も設けます。
- III. まとめ・全体会 「コミュニティの協業と地域循環をめざして」

- (5) 2020年12月4日「労働者協同組合法」が成立しました。

組合員が出資し、運営(意見を反映)し、労働に従事することを基本原理にした協同組合です。持続可能な地域社会の実現を目的に、地域や私たちの暮らし、市民活動に生かされることが期待されます

2021年3月24日に、労働者協同組合法成立「オンライン共同学習会」を開催しました。

基調報告 藤井恵里さん（ワーカーズコレクティブ・ネットワーク・ジャパン（WNJ）代表）

農業分野の事例：（広島県）広島市「協同労働プラットフォーム」事業事務局と

「協同労働アグリアシストとも」実践者のお二人

（愛知県）豊明市の生活困窮者支援（食料・日用品お届け）に関わる経緯と可能性：

企業組合ワーカーズコープあいち 代表 生田美穂子さん

- (6) 2021年度：国際協同組合デー記念企画は、円卓会議として開催しました。

協同は新型コロナの分断を乗り越える

生産と消費（食の農）をつなぐ

健康と人のつながりを取りもどす

新型コロナと協同組合間協同

地域で、労働者協同組合を活かす

子ども食堂・学習支援・食料支援と居場所

巨大（自然）災害に備える

第３期：２０２２年度より、愛知の協同組合間協同を力強く推進する、ステップアップを提案します。

（１）名称を「愛知の協同組合間協同連絡会」とし、参加をひろげます。

（２）この間の到達点をいかし、地域でのつながりを柔軟につよめます。

① 食料と農林漁業を力強くささえる

生産地と消費地（活力と近さをいかす） 県産県消の促進
奥三河「農山村移住と農ある暮らし」、 森林や水産資源
耕作放棄地（の活用）、食育、買い物支援。新規就農の支援

② 協同組合間の協同事業と地域の支え合いを力強くすすめる

「奥三河の協同組合間協同」
「子ども食堂」「愛知県立（公立）大学での学生への食料支援」

③ 医療・福祉・介護分野の交流・連携を広げる

「豊明市・おたがいさまセンターちゃっと」
「生協が行う地域福祉の先駆的な取り組み事例」（厚生労働省作成）

④ 若い世代に協同組合参加を広げ、大学生協の役割発揮を支援する

「寄付講義」「協同組合論」
「協同組合インターンシップ」・「業界研究セミナー」

⑤ 労働者協同組合の設立支援：

協同（組合）の力をさらに幅広い地域の問題解決力にいかす
農や福祉など地域課題を解決する新たな担い手

⑥ 防災・災害時の備え

災害時ネットワーク 行政との連携

⑦ 中長期的（２０３０～４０年へ）の環境変化に備える協同組合間協同へ

- 顔が見える関係づくり
- 組合員の抱える地域課題の解決に向かう事例紹介
- ブロック・地域ごとの交流
- 若手職員の研修、異業種協同組合でのワークショップ
- 各分野の協同組合や幅広い法人等による緩やかな連携の志向
- 協同組合間協同連絡会の継続的な事務局体制